

令和2年度 海田東小学校 学校評価自己評価表

学校教育目標 「考え実践する 海田東っ子 ―笑顔・あいさつ・思いやり（EAO）― 『よく学び』『よく遊び』『やさしく強く』」

| 中期経営目標 | 評価項目 | 評価指標 | 評価基準 | | | | 自己評価 | | | | | |
|--------|---|--|---------|---------|-------|----------|----------------------|-------------|--|-------------------------------|--|--|
| | | | A | B | C | D | 中間評価 | 中間の結果と課題の分析 | 最終評価 | 結果と課題の分析 | | |
| | | | 目標達成 | ほぼ達成 | もう少し | 達成できていない | | | | | | |
| 知 | 「海田町標準学力調査」(CRTの結果) | ・「海田町標準学力調査」全国平均正答率との比較（全国平均正答率以上の学年数）。 | 全学年 | 5学年 | 4学年 | 4学年未満 | | | 国語・算数3学年理科1学年 | D | 学年ごとに自己分析を行っているが引継ぎに課題が見られる。今後年度当初に担当学年の前年度の分析結果や本学年の問題文の見直しを行うことで、指導に必要な内容についての理解を深める。 学校全体での分析結果から改善方法を明確にし、学力向上担当及び学年主任を中心とした日常の授業改善を行うことや基礎基本の定着のための効果的な家庭学習やドリル学習の内容について検討を行う。 | |
| | ・思考力を深める授業の実施 | ・児童アンケートにおける「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の割合。 | 80%以上 | 75%以上 | 70%以上 | 70%未満 | 72% | C | | 74% | C | 教師主導型の学習から児童相互の主体的な学習に変えるために児童が板書や資料を使って自分の考えやその理由について説明する活動を日常的に取り入れる。前段階として、ペタワークやグループワークを活用し児童一人一人が自分の考えや理由が相手に伝わるようにノートや資料を使って説明する場面を設定する。また、よい例を示し、賞賛する。 |
| 徳 | 思いやりを持ち自分や友だちを大切にできる子 | ・児童および教師アンケートにおける、「あいさつや会釈をしている」児童の割合。 ・保護者・地域アンケートにおける、「わが子(海田東小児童)は、あいさつや会釈をしている」と考えている保護者・地域の割合。 | 85%以上 | 75%以上 | 50%以上 | 50%未満 | 教70% 児80% 保80% | C | あいさつについては、コロナの関係で会釈のみのあいさつを推奨していた。なかなか相手に伝わるあいさつになっていないという課題があると感じる。今回地域の方のアンケートが実施できていないが、安全ボランティアの方の声として、地域でのあいさつの課題が聞こえてきている。 | 教81% 児89% 保86% 地域80% | B | 児童委員会による「あいさつ週間」におけるスマイルパチの活動が意欲につながっている。地域や校内でのあいさつが課題であったが校内であいさつを返すことができる児童が増えている。今後も継続的な取組や児童会による主体的なキャンペーン活動を行うことにより、習慣化させ、地域住民へのあいさつに繋げたい。 |
| | ・言葉遣いの指導の取組 | ・児童および教師アンケートにおける、相手に応じて、丁寧な言葉や敬語を使って話ができる児童の割合。 | 85%以上 | 75%以上 | 50%以上 | 50%未満 | 教89% 児84% | C | 児童と教師の間でギャップがある。正しい言葉遣いについて、理解させて指導できていない実態が浮かび上がる。 | 教66% 児85% | C | 学級内における言葉遣いの指導が行われていないことや教師間における指導の温度差があることが課題である。今後、TPOに応じた言葉遣いについて、教職員による共有が必要である。 |
| | ・黙動流汗清掃の指導の取組 | ・児童および教師アンケートにおける、黙動流汗清掃をしている児童の割合。 | 85%以上 | 75%以上 | 50%以上 | 50%未満 | 教61% 児82% | C | 児童と教師の間でギャップがある。目指す清掃の姿を理解させたうえで指導ができていないと考えられる。 | 教66% 児87% | C | 美化委員会の呼び掛けにより、「黙動流汗」の取組や掃除の仕方が児童に意識されつつある。今後も、掃除の仕方の提示や掃除道具の管理等学校体制での振り返りを共有する。さらには、教室内や廊下・階段等にゴミがあれば拾う教室内の整理整頓等児童の主体的な行動へとつなげていく取組を行う。 |
| | ・行事等における「よいとこ見つけ」の取組 ・児童の自己肯定感を高める日常の取組 | ・児童アンケートにおける、自分には良いところがあると考えている児童の割合。 | 85%以上 | 75%以上 | 50%以上 | 50%未満 | 児81% | B | 保護者「子どもは自分の良いところを自覚していると思う」は81%、教師「児童は自分の良いところを自覚していると思う」は82%でほぼ同じであった。 よいところを自覚させる取組をもっと行う必要がある。 | 児78% | B | 今後も行事ごとの「よいとこ見つけ」や生活科や総合、道徳の授業などで友達や保護者から自分の良いところや大切な存在であることを伝え合う場を設定することで児童への自覚を促し、自己肯定感を高めることができた。さらに、教師や学級で日常的に個人を賞賛する場面を設定する。 |
| 体 | 進んで健康・安全を考える子 | ・基本的な生活習慣徹底のための指導の取組 | 80%以上 | 70%以上 | 60%以上 | 60%未満 | 1学期73% | B | 学期に1回、1週間を限定して調査する。この1週間、早寝に心がけて、習慣化してほしいという思いがある。できなかった児童の中には、ゲームを遅くまでする習慣を変えられない児童がいる。 | 児70.1 | B | 早寝の大切さについての動画を作成し、全校児童が視聴したことによって、児童の早寝に対する意識が向上していると考えられる。 しかし、生活習慣を大きく変えるまでには至らず、評価は前回と同じB判定となっている。 今後は、児童への啓発として、目標値や達成率を伝え、児童自身が意識を高く持つ取組を繰り返すようにしていくとともに、保護者へも取り組みの結果を知らせるなど啓発を行っていく。 |
| | ・外遊びの指導の取組 | ・児童および教師アンケートにおける、「1日に1回は外に遊びに出ている」児童の割合。 | 85%以上 | 80%以上 | 75%以上 | 75%未満 | 教72% 児70% | D | 休憩時間にグラウンドには、児童があふれているが、実際には、数値が低い。高学年になるにしたがって、遊ぶ割合が減っている。 | 教71% 児74% | D | ロング屋休憩は、計画的に行われているが、日常的な外遊びへの声かけが少なくなっている。教師も参加する学級単位の外遊び等の計画的な取組が必要である。今後、学校体制として、外遊びキャンペーンや縄跳びランキング等の取組を行っている。 |
| | ・防災教育の実施 | ・児童および教師アンケートにおける、自分の命を守るための安全な行動の仕方分かっている児童の割合。 | 85%以上 | 75%以上 | 50%以上 | 50%未満 | | | 今年度は、予定通りには避難訓練が行えていない。10月に、感染予防に気を付けて地震の避難訓練を行ったが、今回は評価できない。 | 教95% 児97% | A | 計画的な避難訓練や自分の命を守るための特設授業等知識と実践が重なったことが高評価へつながった。今後はより具体的な方法等の定期的な取組を計画的に行っていく。 |
| 開 | 地域に開かれた学校 | ・保護者・地域参加型の授業の実施 | 全学年1回以上 | 全学年1回以上 | 4学年 | 4学年未満 | 全学年実施15授業 | A | 今年度は、当初は実施が不可能であった。密にならない状態で、地域のガイドツアー、体育館での授業等を行い始めている。保護者参加は1学年のみである。 | 全学年30授業以上 | A | 生活科・総合・道徳等アンケート調査や保護者から児童への手紙等保護者参加型の授業実践を行うことができた。更に3学期には、3・4・5・6年において、保護者向けの発表活動やGsuiteを活用した作品発表等これまでの学びについて保護者向けに報告することができた。外部講師を招いての授業も行っている。 |
| | ・HP、学校・学年だよりによる情報の発信 | ・HPを月2回以上更新。 ・学校だより、学年だよりを月1回以上発行。 | 90%以上 | 85%以上 | 80%以上 | 75%以上 | 目標値は上回る。 | B | 目標値を上回る更新、発行回数であるが、学年によって差があるので、そのあたりの課題が残っている。 | 月平均8回 | A | HPの更新は、各学年1回は行うことができた。更新回数の多い学年では、年間20回と休業期間や分散登校中の動物の成長の様子等の更新を行うことができた。学校便り、学年だよりは月1回以上発行することができた。 |
| | ・意図的、計画的な家庭訪問の実施 ・スクールカウンセラー訪問、相談窓口等の保護者への周知 | ・保護者アンケートにおける、学校の取組を信頼できると考えている保護者の割合。 | 85%以上 | 75%以上 | 50%以上 | 50%未満 | 肯定的評価94% | A | 学級によってばらつきはある。子どもとの信頼関係の度合いが表れている。これからも、児童との信頼関係を築き、保護者の声に耳を傾けていく必要性を感じる。 | 肯定的評価95% | A | 欠席した児童への電話連絡等保護者との連携を行うことにより、不登校への早期発見・早期対応を行うことができた。さらに、保護者からの学級や地域でのトラブルについての相談や児童の教育相談等、担任・学年主任・生徒指導主事・管理職で連携し、相談や解決方法について検討を行った。 |
| | ・「児童と向き合う時間」を確保 | ・教職員アンケートで「児童と向き合う時間の確保ができていない」の割合を80%以上にする。 | 85%以上 | 75%以上 | 50%以上 | 50%未満 | 63% | C | 昨年度1年間月の平均月の時間外勤務が45.9時間、今年度学校が再開し、児童が通常登校になってからの6月～9月が46.2時間であった。若干増えている。 | 64% | C | 若手の授業準備や授業改善についての相談を放課後行うことが多く退校時間が遅くなっている。今後、計画的に効率よく授業準備を行うことを指導助言していく。6月～1月までの時間外勤務の平均は、45.1時間であった。 |